心の栄養剤No187－①『コロナ危機で分かったこと』環境からのメッセージ

　気候変動が原因で起きている異常事態は主に五つです。

　一つ目は「**干ばつ**」です。温暖化で気温が上がり、水分が蒸発して地面がカラカラに乾き、作物が穫れなくなる状態です。これによりアメリカや中国、アフリカなどで食料不足や水不足に悩む人々が急増しています。

　二つ目は「**生態系の変化**」です。例えば体長５、６センチほどの「サバクトビバッタ」が大量発生し、世界の穀物を食い荒らしています。特にソマリアでは国家非常事態宣言が発せられました。

　三つ目は「**火災**」です。一昨年暮れから３か月ほど続いたオーストラリアの森林火災では数千戸の家が燃え、１０数億の動物が焼け死んだともいわれています。

　四つ目は「**台風、豪雨、洪水**」です。海水の温度が上がり、多発するようになりました。

　五つ目は「**氷が溶ける**」です。日本の食料自給率は４０％もありませんから、豪雨や洪水、干ばつの被害が増えて食べ物が少なくなると、大きな影響を受けることが予想されるわけです。

　このままのペースで二酸化炭素が排出されると、７年３ヵ月後には地球の温度が１．５℃上がると警告されており、そうならないために国連が二酸化炭素の排出量の目標値を定めています。

　しかしそれは、誰もが実現不可能と思える数字でした。でも、去年はそれを見事達成できたんです。なぜか？

　理由は「コロナ」です。

　世界で大勢の人々が亡くなっているコロナ問題ですが、それにより経済の暴走は減速し、地球温暖化に少し歯止めがかかるという皮肉な結果になりました。

　今回のコロナ危機で分かったことが二つあります。

　一つ目は「気候変動問題のことを誰も『危機』とは取り扱ってはいなかった」ということです。

　コロナ対策時に行われたような、「気候変動問題が深刻なので、電気を使い過ぎないように夜１２時以降は営業自粛」みたいなことは行われませんでした。

　二つ目は「やればできる」です。当初達成不可能に思えた目標を達成できたわけですから、やっぱり「やればできる」のです。

心の栄養剤No187－②　『1万年も続いた「幸せ」の時代』

縄文時代って１万年ほど続いているそうです。実はこれ、人類史上、類を見ないほど長いんですって。僕は先生に「なぜだと思いますか？」と尋ねられました。

「うーん、食べ物に困らなかったのかな」と考えましたが、先生は、「**縄文人は恐らく幸せだったんです**」とおっしゃいました。縄文の文化を調べると、「火焔式土器」という器にものすごいアートが施されてるものがあります。たしかにこういった芸術とか文化というのは、生きるか死ぬかの殺伐とした状況の中では作られませんよね。

「縄文時代は幸せな時代だった」と言える理由は他にもあります。遺跡から、小児まひになっていたと思われる「大人」の遺骨が見つかっているそうです。現代のような医療技術がない時代なので、小児まひの子を育てるのは大変だったはずなんですね。

でもそんな遺骨が見つかっているということは、「みんなで助け合いながら子どもたちを育てていた」という証拠なんですね。そういう助け合いのある時代だったということです。さらにもう一つ、**縄文の遺跡から発掘される遺骨には、人と人が争った跡がほとんどないのだそうです。**ところが、次の弥生時代になると突然、骨に矢じりが刺さっていたり、斧で叩き割られた跡がある遺骨が一気に出てくるんだそうです。

どうして隣の時代なのにそんなに変わってしまったのか。先生はその理由について「地面に線を引いたから」と話していました。弥生時代になって稲作が入ってきたんです。そしてそのことにより始まったことがありました。それは、「ここからここまでは俺の田んぼ」と土地を区切ったり、水を引きやすい場所をお互いに奪い合ったりしたことです。**「みんなで分け合って生きていた時代」から、「所有して奪い合う時代」に入ったということでした。**

僕はこの話を聞いて、縄文時代を舞台にした「本当の幸せ」を小説で書こうと思いました。分け合い、助け合いの精神が重んじられた**「幸福の時代」は１万年も続いた。けれども、奪い合い、争い合う時代は長くは続かない。**

深く考えさせられ、考え込みました。世の中には自分（人間）の力ではどうしようもない事（自然災害～疫病等）が多くあるなかで、私達～人類が生きていく為にはお互い・・・

『みんなで辛抱するところは辛抱して、みんなで助け合い
工夫して分け合って生きていく』

そんな時代にしていく事が大切なんだと思います。

※木の芽萌え、生命あふれる春です。きっとコロナも終息に
向かうと信じてます。あとしばらくの辛抱で乗り切りましょう！